

越前箆笥のおはなし



天然無垢材の原木から必要な部材に加工し、塗装、組み立て、金具を取り付けるなどして完成する。単に衣類をしまうものではなく、商家の証文や大福帳をしまう金庫として使われたため、頑丈で鍵がかかり、火事の時に運び出すために車輪がついた車箆笥が代表格

美しさと個性ある箆笥は
アートにもなる芸術品。



木材の特性を活かし、釘は使わずに木の板と板を組むほぞ接ぎの技術を持つ指物師によって作られるようになった越前箆笥。仕上げの漆塗りに越前漆器の技術である拭き漆、春慶塗、呂色塗りなどの技法を、鉄製金具には越前打刃物の技が用いられている。江戸後期からは婚礼道具や家宝として重宝。その伝統的なデザインや造りの美しさ、堅牢な作りによる箆笥作りの技術を、現代の生活に落とし込んだ新商品も生まれ、今

もなお生活の中で大切にされる存在として息づいている。レトロモダンな雰囲気は味わい深く、アート感覚でも愛することもできる芸術品だ。

詳細動画は
こちらから

